

多彩な人物がさまざまな業界で活躍  
森垣アミリーの人々

文・瀬戸本淳（建築家）



瀬戸木 達(せとむ たつや)

四緒得

前回は神戸港を近代的な「港湾」へと改修する一大プロジェクトを手がけた技術者、森垣亀一郎について綴ったが、彼の父アーミリーには錚々たる人物が名を連ねている。

義父の神矢肅<sup>ス</sup>は豊岡小学校の校長を務めていた時、才能がありながら家が貧しかった幼き亀一郎に目をかけ、進学への道を拓いた人物だ。その後、兵庫尋常高等小学校などの校長を務め、晩年は東常小学校や神戸尋常高等小学校などの校長を務めた人物だ。

前回は神戸港を近代的な  
『港湾』へと改修する一大プロ  
ジェクト、土木技術者、港

京で私塾を開くなど有名な教育者で、長いあごひげの名士で

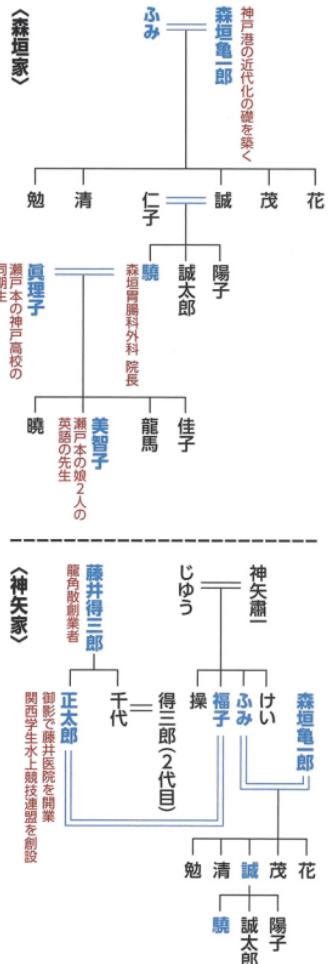
その弟、沖野忠雄は土木史上に名を残す偉大な技術者だ。東京帝国大学で学ぶ亀郎へ学資の援助もおこなった。豊岡藩の貢進生として大学南高(後の東京大学)へ進学、その後フランスへ留学し近代土木工学を学ぶ。帰国後は淀川の改修や大阪港・神戸港の築港など国家的プロジェクトなどで手腕を發揮したという。

揮し、手がけた港湾は80カ所、河川は100カ所以上という。亀一郎の妻、ふみの妹にして、神矢肅の三女の福子が嫁いだ藤井家は、秋田藩の御殿医の流れを汲む家柄。秋田藩佐竹家の伝業をもとに、藤井家代々により編み出されたのが「龍角散」だ。福子の夫、藤井正太郎は京都大学医学部を卒業し、水泳教育にも尽力し、関西学院御影で藤井医院を開業した。

育研究会を創設 古式水泳に  
通じ、巻き足や踏み足などその  
技術を伝承したからこそ日本  
はシンクロナイズドスイミングの  
強豪国にならえたのかもしれない。  
元総理大臣の鳩山一郎とも親し  
かつたそうだ。

正太郎の義兄にあたる二代目藤井得三郎は龍角散の会長を務めた人物で、亀一郎と交流が深かつた。関東大震災後に大坂へ工場を移し事業を復興するにあたり、亀一郎が船会社との交渉などで協力して製品や救援物資の輸送が可能になつた。

さて、森垣亀一郎は4男1女をもうけたが、教育熱心な家庭だつたようだ。4人の子息はみな神戸一中（現在の神戸高校）



〈森垣家〉

瀬戸本の神戸高校の  
同期生

四

神矢家

関西学生水上競技連盟を創設